

「神大スポーツ」では、体育会・文化系問わず、課外活動で活躍する学生や指導者たちの最新記事を掲載！
学内のみならず、広く国内外で活躍する神大生の情報をお届けします。

神大スポーツ

第39号

2024年 6月6日 木曜日



発行：神奈川大学
〒221-8686 横浜市神奈川区六角橋3-27-1
TEL 045-481-5661

JINDAI SPORTS



内藤 未唯 選手 (人間科・4年)
出身校：石橋 (栃木)

東京2025世界陸上 出場に向けて

2023年7月12日(水)～16日(日)にタイ・バンコクで開催された第25回アジア陸上競技選手権大会の女子20km競歩に、日本代表として出場した内藤未唯選手(人間科・4年)は1時間37分35秒の好成績で4位入賞を果たした。

内藤選手は「初めて日本代表に選ばれ、緊張感の中で挑んだ大会でした。表彰台に立つことを目標に練習をしてきましたが、試合ではあと一歩が届かなかった」と振り返った。4位という結果に悔しさを滲ませつつも、日本では異なる気候の中でも万全のコンディションを整えて、最後まで走り抜く健闘を見せてくれた。

その後、2023年10月22日に山形県高崎市で開催された第60回全日本35km競歩高島大会では一般女子35kmWに出場し、2時間50分35秒と日本歴代3位の好記録で優勝に輝いた。大会を振り返り「35kmは初めての出場だったが、序盤から良いペース展開しながら維持することが出来ました。長距離に挑戦したことで、ペース配分の重要性を感じました」と新たな手応えを話してくれた。



砂川 圭貴 選手 (国際経営・4年)

サーフィンの魅力を 届けたい！

神奈川大学には課外活動団体に所属せず個人で優秀な成績を残すスポーツ選手も数多く存在する。今回はサーフィンで活躍する砂川圭貴選手(国際経営・4年)を紹介したい。砂川選手は、2023年10月21日(土)～22日(日)に開催された第52回秋季全日本学生サーフィン選手権にて、メンAクラスとシニアクラスの両クラスで優勝する好成績を残した。メンAクラスはショートボード、シニアクラスはロングボードを扱う。種目の違う競技での2冠は快挙である。「前回大会は、1Bメンクラスで優勝を逃してしまい、悔しい思いをした。昨年を超える結果を残せて嬉しい」と話す砂川選手は笑顔が印象的だった。

「サーフィン始めた幼少期は遊び程度だったが、波を乗りこなす快感やサーフィンの奥深さによりハマってしまった」と振り返る砂川選手。また、中学生時代からの友人で現役のプロサーファーでもある堀越類選手の影響も大きいという。互いに切磋琢磨しながら今のレベルまで成長出来たとのことだ。

サーフィンについて「競技」

サーフィン

砂川 圭貴 選手
活動詳細はこちら

陸上競技部

陸上競技部
活動詳細はこちら



今年度の目標について「来年度開催される東京2025世界陸上に出場したい。大会毎に自己ベスト更新を意識しながら選出されるように取り組みたい」と世界の舞台を見据えていた。高校生の時に競歩と出会った内藤選手。当初はマネージャーとして陸上競技に入門したが、競歩で活躍する選手たちを見て、自分もやってみたくて挑戦したのがきっかけだったという。大学では、コーチと二人三脚で実力を付け、日本屈指の選手になるまで成長を遂げた。今後も世界の舞台で競い合う姿に期待したい。



ただでなく「娯楽」としても楽しめるスポーツだと思う。何歳からでも始められ、交友関係も増えていく」と話す。最近では、一人で多くの方にサーフィンを知ってもらうために、指導や魅力の発信もしているようだ。

最後に「今年度も再クラスで優勝を取りたい。ただ、結果ばかりを追い求めず、サーフィンを心から楽しむ気持ちを忘れずに活動していきたい」と熱い想いを語ってくれた。今年も砂川選手の活躍から目が離せない。

国内外で活躍する トップアスリート 特集



新倉 すみれ 女子主将 (人間科・4年)
出身校：安部学院 (東京)

目指すは 世界の頂点へ！

2024年3月7日(木)～10日(日)に開催されたヤンチャ・ドク&ベビー・エムレ国際大会女子72kg級にて、新倉すみれ女子主将(人間科・4年)が自身初となる国際大会での優勝に輝いた。「重量級では珍しい4試合と試合数の多い戦いだったが、持味を活かしたレスリングができた。優勝したことで自信がつく大会になった」と振り返る。もともとフィジカル面に強みのある新倉女子主将だが、海外の選手はパワーで押し切ることも多く、国際大会では毎回苦戦を繰り返していた。日々の練習成果が発揮されたようだ。

今年度の練習について「レスリング部の新入部員の中に、新しいレスリングスタイルの選手もいるので、刺激のある練習ができています。また、苦手とする左構えの選手の対策として、攻撃の幅を広げるために新しい技を練習している」と話してくれた。週6日のハードな練習が、新倉女子主将を世界クラスの選手へ押し上げているようだった。

最後に「レスリングを始めたのは、中学2年生からと他の選手と



石井 桜次 主将 (人間科・4年)

目指すは 世界の舞台へ！

2023年10月21日(土)～22日(日)に開催された第96回日本学生水上選手権大会(全)ショートトラック競技第46回日本学生ショートトラックスピードスケート選手権大会男子1500m(キートン、インカレ)にて優勝に輝いた石井桜次主将(人間科・4年)。インカレでは、自分の理想的な滑りやレース展開ができた。全国レベルの大会では、優勝まで一歩届かないことが多かった。優勝ができた嬉しさと自身の滑りに自信を持つことが出来る大会となった」と振り返る。昨年度は、日本でもトップクラスの滑りが出来ている感覚があったものの、勝ちきれない焦りからメンタル面で負けそうになることが多かったという。ただその反面、自らを律しながら練習に打ち込むことが出来たことで、その成果がインカレで発揮された。

練習について「4月から強度を上げた練習を行っている。サーキットトレーニングやハイクレートニングなどの極限まで体力を追い込むものから、体幹を鍛えるウエイトトレーニング、スケールディングのフォーラム練習を週6日間の練習

レスリング部

レスリング部
活動詳細はこちら



比べて遅いスタートとなったが、勝つことの楽しさを経験しながら今の舞台まで上がってくるのが出来た。大学生活最後となる今年度は、非オリンピックの世界選手権大会に必ず出場し、金メダルで

締めくくりたい」と熱い想いを語ってくれた。今年度も新倉女子主将が、世界で活躍している姿に期待したい。

スケート部

スケート部
活動詳細はこちら



で繰り返している」と話してくれた。このハードなトレーニングが日本トップクラスの選手へと進化させたのである。

最後に「大学生活の集大成となるような年間にしたい。インカレ拒絶での複数優勝や、ワールドカップでのメダル獲得など世界でも戦えるような選手になりたい。そのために初心を忘れず、真摯にスケールに向き合ってきた」と熱い想いを語ってくれた。今年も石井主将の活躍から目が離せない。

目指すは夢の舞台TOP8へ!

2023年9月2日(土)〜12月24日(日)まで開催された2023年度関東大学アメリカンフットボールリーグ戦(以下、リーグ戦)2部Bブロックを全勝で勝ち進み、続く入れ替え戦でも勝利を収め、昨年度目標にしていた1部BIG8に返り咲いたアメリカンフットボール部A teams。

横山信吾主将(自治行政・4年)は「入れ替え戦の対戦相手は、強豪の明治学院大学だったが、リーグ戦2部Bブロックを全勝した勢もあり、勝ち切る事が出来た。1部BIG8に昇格が出来て嬉しい」と振り返る。続けて「ただ、1部BIG8で戦うには更なる練習が必要だ」と話してくれた。現在は、走り込みやショートダッシュ、筋力トレーニングを中心としたフィジカル面の強化をしつつ、試合の戦術をまとめた「PLAYBOOK」を作成し、選手たちに周知徹底を行っているとのこと。



横山 信吾 主将(自治行政・4年)
出身校: 日本大学第三(東京)

アメリカンフットボール部

「準備のスポーツ」と言われるくらい、分析と対策が非常に重要である。全てを出し切り1部BIG8の舞台で戦っていきたい」と意気込みを話してくれた。最後に「1部BIG8で上位に食い込めるチームにしたい。その上で1部TOP8を目指していく。意識を高く持ち、オンとオフがしっかりと活動が徹底していきたく」と熱く語ってくれた。同部は、マネージャー以外にも選手を募集しているように、未経験者でも活躍している選手もいるという。ぜひ体験に行ってみてはいかがだろうか?

アメリカンフットボール部
活動詳細はこちら



Bブロック昇格に向けて!

2023年8月29日(火)〜31日(木)に開催された2023年度関東大学秋季Cブロック対抗戦にて僅差でBブロック昇格を逃したゴルフ部。Bブロック昇格に向けて、再スタートを切った。

渡部太一主将(国際経営・4年)は「昨年度は技術面に問題はなかったが、メンタル面の弱さから1打差で負ける試合も多かった。今年度はより、試合を意識した実践的な練習をしていきたい」と話してくれた。同部は週2回の練習を基本としており、スイング練習やフォームの確認など各自の課題を意識した練習に取り組んでいるという。今年度は新たな試みとして練習で回ったラウンドのスコアを提出し、成績上位4名が優先的に試合に出場できる取り組みを行っているという。普段の練習から順位を意識することで選手たちの更なる成長を期待したい。



渡部 太一 主将(国際経営・4年)
出身校: 鶴岡東(山形)

ゴルフ部

ゴルフについて「大学から未経験で始める方も多し。経験者がしっかりと指導するので安心して欲しい」と話す渡部主将。上達の速い方は、半年程度でスコアを100以下にする選手もいるとのこと。「ゴルフは、社会に出てからも役に立つスポーツだと思う。興味のある方はぜひ見学に来て欲しい」とも話してくれた。最後に「今年こそBブロックに返り咲く。その為にも意識を高く日々の練習に臨みたい」と熱い想いを語ってくれた。今年もゴルフ部の活動に期待したい。

ゴルフ部
活動詳細はこちら



大学生活をもっとアクティブに!

1部昇格に向けて放つ1射

第55回関東学生弓道選手権大会南関東3部リーグ戦にて、男子団体・女子団体ともに入れ替え戦に勝利し、入れ替え戦も両団体は勝利を収め、2部昇格となった弓道部。更なる飛躍に向けて、新体制が開始した。

秋山世風主将(化学・3年)は「昨年度は、弓道部として成長を感じた1年間だった」と振り返る。同部は、週4回の練習を基本としており、実際に弓を射る「射込み」や、試合形式に合わせた練習を行う「立練」を行い、日々技術を磨いている。



秋山 世風 主将(化学・3年)
出身校: 大船(神奈川)

弓道部

毎年の新入部員について「大学で弓道を学ぶには、経験者でないといけないと思われ方が多いと思うが、当部は未経験者も多く入部しているので安心して欲しい」と話してくれた。未経験者には、弓道の基本である「射法八節」を先輩が指導してくれるとのことだ。最後に「今年度は、男子団体・女子団体ともに1部昇格を果たすための活動をしていきたい。また、弓道は生涯武道であり将来に必ず役に立つと思う。少しでも興味があればぜひ練習を見学しに来て欲しい」と想いを語ってくれた。弓道部の更なる躍進に今年も期待したい。

弓道部
活動詳細はこちら



リーグ戦7連覇に向けて!

2023年9月2日(土)〜10月29日(日)に開催された令和5年度神奈川大学準硬式野球連盟秋季リーグ戦(以下、リーグ戦)も優勝に輝いた準硬式野球部。7連覇に向けて新体制が開始した。

前田徹主将(経済・3年)は「6連覇を達成できて嬉しい。好調を維持して7連覇を目指したい」と振り返る。同部は週4回の練習を基本としており、横浜キャンパス内のグラウンドでは基礎練習、外部球場を借りる場合は実戦練習と切り分けて活動している。また大きな特徴として、学生のみで練習メニューの決定やミーティングの開催、大会を含む年間スケジュール調整までを行っているという。「他団体と比べても、自主性を重要視していると思う。厳密なルールが無い。のびのびとした活動をしている反面、部員全員が自らを律しながら活動している」と話してく



前田 徹 主将(経済・3年)
出身校: 三浦学院(神奈川)

準硬式野球部

「練習風景を覗くと、大人の姿は見えず学生主体で声掛けや練習指導をしている姿が印象的であった。練習メニューも、大人の指導を受ける全国大会でも優勝したい」と熱い想いを語ってくれた。今年も準硬式野球から目が離せない。大学で野球を続けたいが、学業も私生活も両立させていきたいという方は一度見学に行ってみてはいかがだろうか?

準硬式野球部
活動詳細はこちら



6部返り咲きを目指して!

2023年8月17日(木)〜9月17日(日)まで開催された2023年度関東大学テニスリーグ7部(以下、リーグ戦)にて決勝リーグナメントに勝ち進み、一歩届かず4位となった硬式テニス部。6部昇格の目標に向かって新チームが再スタートした。

水戸慎悟主将(人間科・4年)は「決勝トーナメントでは、準決勝で敗れてしまい悔しい思いをした。気持ちを切り替えて今後の練習に励みたい」と話してくれた。同部は週4回の練習を基本としており、球出しなどの基礎練習から試合形式の実戦練習を中心に行っている。



水戸 慎悟 主将(人間科・4年)
出身校: 文教大学付属(東京)

硬式テニス部

生活でも礼儀や礼節を意識した活動をしており、日ごろから精神面の安定を図っているとのことだ。最後に「今年度は、目標としているリーグ戦7部での優勝と6部昇格を果たしたい。ひたむきにテニスと向き合い、勝利を積み重ねていきたい」と熱い想いを話してくれた。今年度が飛躍の年となることを期待したい。また同部は、未経験者から始める選手も多いとのことなので、興味がある方はぜひ見学や体験に足を運んで欲しい。

硬式テニス部
活動詳細はこちら



インカレ優勝を目指して!

2023年12月24日(日)〜2024年1月6日(土)に開催された第32回全日本大学女子サッカー選手権大会(以下、インカレ)に出場した女子サッカー部。今年もインカレ優勝を目標にスタートを切った。

前島翠主将(国際経営・4年)は「昨年度は得点力に欠ける試合が多かった。今年度は得点のチャンスを作る為に、自分達がボールキープをする時間を増やしていきたい」と話してくれた。現在は、ポジティブを意識したパス回しや、フィジカルトレーニングを中心とした基礎的な練習を行っているという。チームの雰囲気について「先輩・後輩関係なく、部全体でコミュニケーションも多く、仲が非常に良い。試合中も1年生から先輩へ指示を出すこともあり、余計な遠慮をせずプレーに集中している」と話す。和やかな雰囲気の中でも、真剣に練習に取り組んでいるという。



前島 翠 主将(国際経営・4年)
出身校: 暁星国際(千葉)

女子サッカー部

サッカーと向き合っている姿は、高い意識を感じられた。最後に「今年度のスローガンは『青天霹靂』としており、観ている人が驚いてもらえるようなプレーをしていき、今年こそは、インカレで優勝をしたい」と意気込みを話してくれた。また、今年度からマネージャーを募集し始めたようである。練習のサポートからSNSでの情報発信など選手を後押しできるポジションが新設されたとのことだ。最初は、サッカーを知らなくても、出来る仕事も多いとのことなので、興味のある方はぜひ見学に行ってみて欲しい。

女子サッカー部
活動詳細はこちら



縁の下の力持ち マネージャー取材日記

高橋 美月 さん(法律・4年) 出身校: 立正大学付属(東京)

今回のマネージャー取材日記は、今までにプロサッカー選手を多く輩出して来たサッカー部だ。

高橋美月さん(法律・4年)は、高校まで硬式テニスの選手として活躍しており、サッカーはおろかマネージャーも経験したことがなかったという。高校の引退試合は優勝で飾ろうと意気込んでいた最中、コロナ禍が重なり試合がなくなってしまったそうだ。大学では選手として続けたいことを決めていた高橋さんだが、不完全燃焼だったこともあり、サッカー部のマネージャーとして部をサポートし、一緒に優勝の夢を追いかけたいと思い入部に至ったという。

日々の活動について「選手の練習がスムーズに行えるよう、コーチと連携を取りながら準備をしている。練習メニューごとに、ボールの設置やグラウンドの整備を先回りして準備することで限られた時間を効率よく使えるようにしている」と話す高橋さん。大変な仕事も多いが、やり遂げた時の達成感や、選手たちが試合に勝った時の喜びは、他では味わえないやりがいがあるようだ。



最後に「今年度の目標である『関東大学サッカーリーグ戦2部優勝・1部昇格』をマネージャーとして後押ししていきたい。夢を追いかける選手たちをサポートしてみたいと思う方は、ぜひマネージャーに応募して欲しい」と想いを語ってくれた。SNSでの情報発信など練習補助以外にも様々なサポートの仕

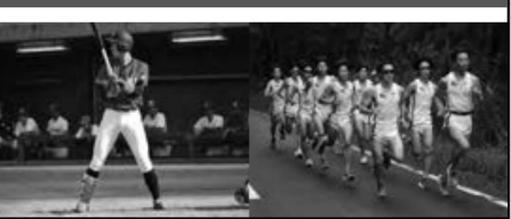
方があるようなので、興味のある方は体験しに行ってみてはいかがだろうか?

サッカー部
活動詳細はこちら



課外活動団体へのご支援をお考えの皆様へ

下のQRコードからアクセス
神大スポーツ・文化振興賛助金募金



チームワークを武器に2部昇格へ

2023年4月22日(土)～5月7日(日)に開催された第57回関東学生バスケットボール選手権大会にてベスト16に輝いた女子バスケットボール部。続く8月26日(土)～29日(日)に開催された第73回関東大学女子バスケットボールリーグ戦3部(以下、リーグ戦)では2部への入替戦に挑むも一歩届かず悔し涙を飲んだ。悲願の2部昇格に向けて新チームが活動した。

佐藤 美優 主将(国際経営・4年)
出身校:白鷺女子(神奈川)



佐藤 美優 主将(国際経営・4年)
出身校:白鷺女子(神奈川)

女子バスケットボール部



女子バスケットボール部
活動詳細はこちら



最後に「選手同士の仲の良さもこのチームの魅力。連携感も活かして、必ず2部昇格を果たしたい」と話してくれた。学年の垣根を超えたチームワークを武器に勝利を求めた女子バスケットボール部の活躍が楽しみだ。同部は選手やマネージャーを募集しており、バスケットボールに興味がある方は見学や体験に足を運んで欲しい。

2部リーグ返り咲きに向けて

2023年7月9日(日)～12月17日(日)に開催された第35回関東学生ラグビーフットボール選手権大会(以下、リーグ戦)にて、白熱した試合展開を見せるも一歩届かず、3部降格となった男子ラグビー部。2部リーグへ返り咲くために新チームが活動した。

迎悠 太郎 主将(歴史民俗・4年)
出身校:東海大学付属相模(神奈川)



迎悠 太郎 主将(歴史民俗・4年)
出身校:東海大学付属相模(神奈川)

男子ラグビー部



男子ラグビー部
活動詳細はこちら



今年度のスローガンは「新時代の画期的なチームを創る」という意味を込めて「EPOCH」を掲げている。迎悠主将は「3部降格を前向きに捉えて、一から強いチーム基盤を作っていく」ことを目指している。

神奈川大学の課外活動団体は、大学からでも選手やマネージャーとして活躍できる団体も数多くあります。今回は、こちらの12団体をご紹介します！大学生活をもっとアクティブにしませんか？

夢の1部昇格に向けて

2023年度秋季関東大学女子2部バレーボールリーグ戦(以下、秋季リーグ)で2部残留を決めた女子バレーボール部。夢の1部昇格へ向かってスタートを切った。新体制を指揮する高久さら沙主将(人間科・4年)は「秋季リーグは思い描いていた戦いが出来ず結果が残せなかった。試合を通して課題も明確になったので、今年こそは結果を出す」と話してくれた。同部は、今年度からウェイトトレーニングを新しく取り入れているという。成果は徐々に出てくるように、レシーブではボールを取れる範囲が増え、サーブやアタックでは、力強さが出てきているという。チームについて「全体の雰囲気は良くなってきている。選手一人ひとりが、同じ目標に向かって意識高く練習している」と話す高久主将。取材中も、自主的に残った練習に励む選手の姿が印象的で



高久 さら沙 主将(人間科・4年)
出身校:水戸女子(茨城)

女子バレーボール部



女子バレーボール部
活動詳細はこちら



あった。続けて「私を含む4年生は、今までに培ってきたことを全て出し切る年となった。後輩を導き、総力戦で試合に臨んでいく」と意気込みを語ってくれた。最後に「今年こそ2部の人替戦に出場し、1部昇格を果たしたい。日頃から応援してくれる卒業生やサポーターの方の為に結果を残したい」と抱負を話してくれた。その夢が叶うよう躍進を期待したい。なお、同部はマネージャーを常に募集しているように、夢を応援したい方はぜひ見学に行ってみよう。

エールで選手を後押し！

重点強化部をメインに、パフォーマンスと声援で選手たちにエールを届けているチアリーディング部。同部は、チアリーディングの大会に参加しない分、選手たちを応援することに特化した活動をしている。尾崎 沙音 主将(経済・3年)は、昨年度はコロナ禍も明け、応援に行く回数が増えた。選手たちを更に後押しするために、今年度は新しい練習を取り入れていく」と話す。同部は、週3回の練習を基本としており、柔軟・手振りの基礎練習から、スタンプや選手を上空に上げるトスなどの実践練習まで幅広く行っている。最近の応援について「陸上競技部駅伝チームが出場した第100回東京箱根間往復大学駅伝競走(以下、箱根駅伝)本大会の応援が印象に残っている」と振り返る。部員全員が、初めての箱根駅伝本大会の応援だったこともあり、貴重な経験になったに違いない。



尾崎 沙音 主将(経済・3年)
出身校:横浜立野(神奈川)

チアリーディング部



チアリーディング部
活動詳細はこちら



毎年の新入部員について「チアリーディングは大学から始める方も多く、当部も未経験者が多く在籍している。最初は身体が硬くても柔軟を続けることで、ほとんどの方が1年間で柔らかくなる」と話す尾崎主将。練習についても、部員のレベルに合わせて先輩が指導してくれるようなので、経験者・未経験者ともに成長できる環境があるようだ。最後に「今年度はトスを最大限に強化したい。その為にも新入部員の力が必要になるので、ぜひ見学しに来てほしい」と話してくれた。これからも試合に華を添えるチアリーディング部の活躍が楽しみだ。

リーグ戦1部優勝に向けて

2023年8月26日(土)～11月3日(金・祝)に開催された第99回関東大学バスケットボールリーグ戦1部(以下、リーグ戦)にて1部残留を決めた男子バスケットボール部。リーグ戦1部の頂点を目指して新チームが活動した。

齋藤 秀明 主将(人間科・4年)



齋藤 秀明 主将(人間科・4年)
出身校:荏田(神奈川)

男子バスケットボール部



男子バスケットボール部
活動詳細はこちら



最後に「リーグ戦1部で優勝を勝ち取りたい。また、その先に控える第76回全日本大学バスケットボール選手権大会でも優勝し日本一になりたい」と熱い想いを語ってくれた。男子バスケットボール部の活躍に今後も期待したい。また同部は、学生スタッフを募集しているように、チームを支えたいという方はぜひ見学に行ってみようか？

インカレ入賞を目指して！

2023年9月23日(土)～24日(日)に開催された第38回全日本学生ライフセービング選手権大会(以下、インカレ)にて、個人種目サーフレス女子で吉田綾香選手(人間科・4年)が2位入賞の好成績を収めたライフセービング部。3年連続で入賞した。主将の矢崎 翔也 副主将(人間科・3年)は「今年も、互いに切磋琢磨しながら練習をしていく」と話してくれた。同部は、週3回の練習を基本としており、オフシーズンには大学内のプールを使用し泳ぎの強化、シーズンに入ると砂浜での走り込みや、海上でクラフトを利用した実践的な練習をしているとのこと。ライフセービングについて「もちろん競技としての魅力もあるが、練習ですれすれ、人のためになるスポーツだ」と魅力を話す矢崎副主将。ライフセービングの最大の目的は「今年度は、インカレで入賞できる選手を増やしていきたい。参加できる競技数を多くするためにも新入部員の力が必要なので、ぜひ見学しに来てほしい」と熱い想いを語ってくれた。今年もインカレで活躍する姿が楽しみだ。



矢崎 翔也 副主将(人間科・3年)
出身校:武相(神奈川)

ライフセービング部



ライフセービング部
活動詳細はこちら



最後に「今年度は、インカレで入賞できる選手を増やしていきたい。参加できる競技数を多くするためにも新入部員の力が必要なので、ぜひ見学しに来てほしい」と熱い想いを語ってくれた。今年もインカレで活躍する姿が楽しみだ。

指導者インタビュー

陸上競技部駅伝チーム 駅伝監督 中野 剛



今回の指導者インタビューは、陸上競技部駅伝チームに新しく就任した中野剛監督に話を聞いた。

中野監督は、高校から陸上を始め中距離の選手として活躍。大学でも陸上を続けていく中で、高校時代の顧問が大学で陸上競技部部長(前駅伝監督)と日本体育大学時代の先輩後輩だったこともあり、薦められて神奈川大学へ進学。選手として69・71回の箱根駅伝本大会に3年連続で出場すると、2021年に神奈川大学陸上競技部駅伝チームのコーチとして母校へ戻り、今年2024年1月4日(土)に、大学生時代からの恩師である大後陸上競技部部長から新駅伝監督として「棒」が繋がった。新体制を指揮する中野監督は、かつての選手たちが卒業してしまっただけで、現役の選手たちも今のままでは実力不足だと理解をしてくれている。現在は、選手生を中心に積極的なミーティングを開いており、まとまりのあるチームになるよう努めている。

最後に「今年度も、箱根駅伝本大会への出場をもち、4年生の引退試合としたい。また、選手を気持ちよく送り出したい。更には応援してくるようなチームになるよう指導していきたい」と話してくれた。中野監督の指導のもと陸上競技部駅伝チームがゴールに向けて駆け出し始めた。



選手の様子を話してくれた。その成果も徐々に出てきており、記録を更新する選手も増えているとのこと。「他大学と比べると選手・主務を含め50名程度と少ないため、中間層の選手たちの底上げが課題となっている。選手それぞれ力量に合わせてトレーニングを行い、選手と面談を重ねて全体的に強化していく」と話してくれた。

中野監督は「箱根駅伝本大会以外の出場、全日本大学選抜駅伝競走や秩父宮賜杯全日本大学駅伝対校選手権大会の大学三大会と呼ばれる大会に、常に出場できるようにチームにしていきたい。容易な道ではないが必ず達成していく」と意気込みを語ってくれた。

最後に「今年度も、箱根駅伝本大会への出場をもち、4年生の引退試合としたい。また、選手を気持ちよく送り出したい。更には応援してくるようなチームになるよう指導していきたい」と話してくれた。中野監督の指導のもと陸上競技部駅伝チームがゴールに向けて駆け出し始めた。

運動部だけじゃない!

文化系 だより

文化系の課外活動団体とサークルを紹介!

体育会団体以外にも、文化系団体、サークルが日々活動を行っております。
今回は、下記の6団体をご紹介します。

声で奏でるメロディー

楽器を使わず、人間の声だけで演奏をする音楽スタイルの「アカペラ」。音楽が好きなら、ぜひアカペラサークルJACKをおすすめしたい。

田村雅久代表(情報システム創成・3年)は「アカペラは、楽器が必要ない」ともあり、誰でもすぐに始められ、場所を選ばずどこでも演奏が出来る。また、音楽のジャンルに縛りがなく、ジャズから近代曲まで幅広い表現でできることが魅力だ」と話してくれた。同サークルは、週1回の全体練習を基本としており、発声やバンドメソッドと声合わせを中心に練習している。また年2回ライブを開催しており、練習の成果を披露することもできるという。「積み上げてきた成果を、お客様の前で演奏したときは達成感がある」と田村代表は話す。アカペラと聞くと初心者にはハードルが高そうに見えるが、声域の高い・低いに関係なく、自分に合ったパートが必ず見つかること。田村代表は「初心者の方の練習方法も



田村雅久 代表(情報システム創成・3年)

アカペラサークルJACK

アカペラサークルJACK
活動詳細はこちら



あり、各パートリーダーが練習方法を指導してくれるので安心して欲しい」と話してくれた。最後に「横浜とみなみみらいの両キャンパスを含めてメンバーが60人以上在籍しており、多くの人と交流もできる。アカペラを通して思いに残る大学生活になると思うので、一度遊びに来て欲しい」と話してくれた。アカペラ未経験者・経験者問わず、音楽が好きなら足を運んでみてはいかがだろうか?

演奏で観客に感動を届ける!

多彩な楽器が奏でるメロディー。定期演奏会の開催や箱根駅伝をはじめとした課外活動団体の応援演奏を行う管弦楽団。音楽の力で元気や感動を届けた方におすすめの部活だ。

宮脇信一団長(経営工学・3年)は「昨年は、地域交流を目的としたイベントの機会が多かった。小学校の総合学習の一環や、自治体の行事の場で演奏をするなど、音楽を通して地域の方々との交流が増えた1年だった」と振り返る。演奏会後には、子どもたちから感想を書いたお手紙をもらうなど嬉しいエピソードも添えてくれた。同部は週3回の全体練習を基本としており、楽器ごとにトレーナーを招いたレッスンを行い、春と冬に年2回開催される定期演奏会に向けて練習に励んでいる。宮脇団長は「一番の目標は、定期演奏会を成功させること。練習の成果をお披露目して、お客様に管弦楽の魅力をお届けしたい」と語ってくれた。定期演奏会では、500名を超える方が駆けつけ、練習の成果をお披露目して、お客様に管弦楽の魅力をお届けしたい」と語ってくれた。定期演奏会では、500名を超える方が駆けつけ、練習の成果をお披露目して、お客様に管弦楽の魅力をお届けしたい」と語ってくれた。



宮脇 信一 団長(経営工学・3年)
出身校: 攻玉社(東京)

管弦楽団

管弦楽団
活動詳細はこちら



つけるようで、毎年楽しみにしているファンも多いそうだ。最後に「学年に隔たりはなく、コミュニケーションの取れた活動ができていて、一体感のある演奏を心がけています。2024年6月28日(金)に開催する第83回定期演奏会を成功に導きたい」と意気込みを話してくれた。楽器未経験の方でも始められる管弦楽団。音楽が好き・楽器を演奏してみたい方は、ぜひ見学・体験しに行ってみてはいかがだろうか?

神奈川大学の良さを届ける企画を!

春と夏に行われるオープンキャンパスで、高校生たちに神奈川大学の魅力を伝えるためのイベントを日々企画しているオープンキャンパス企画部。同サークルは「学生主体」でイベントを創り上げており、オープンキャンパス毎に大きなやりがいを得られているという。

大門雅一サークル長(歴史民俗・3年)は「オープンキャンパスでは、高校生たちの前に立つて各学科の魅力やキャンパスツアーの引率なども増えてきており、活動の幅が広がっている」と話す。同サークルは週1回程度集まり、イベント・Instagramの更新・人事・書記の4つの班に分かれて活動している。また各学科の情報を伝えるのにも、様々な学科の学生が集まって活動している同サークルの特徴のよう、「活動を通して各学科を知ること、神奈川大学の魅力を再発見できる」と話してくれた。サークル



大門 雅一 サークル長(歴史民俗・3年)
出身校: 岸根(神奈川)

オープンキャンパス企画部

オープンキャンパス企画部
活動詳細はこちら



内のコミュニケーションも多く、活気のある活動が出来ているようだ。最後に「今年度も新しい企画を模索していきたい。受動的ではなく、能動的な活動を意識して、昨年度を超える企画を創り上げていきたい」と熱意あふまぬ語ってくれた。今後オープンキャンパス企画部の考える企画が楽しみだ。

本気のお笑いを神大から!

創立3年目を迎えた神奈川大学お笑いサークルKYSは、お笑いが好き・プロの芸人を目指したい方におすすめのサークルだ。

砂渡部長(化学・4年)は「私自身もプロのお笑い芸人を目指しており、大学でも経験を積みたいと考えていた。経験を積むのであれば、同じ志を持つ仲間と活動したい」との思いから、サークルを立ち上げた」と振り返る。同サークルは週2回の活動を基本としており、ネタ作りやネタ合わせを行っている。また月1回の頻度で、サークル内で必ず新ネタを披露する場を設けており、実践的な経験も積んでいるという。月1回の頻度は他大学のサークルから見ても多いようだが、驚かれたことがあったそうだ。



砂渡 部長(化学・4年)

神奈川大学お笑いサークルKYS

神奈川大学
お笑いサークルKYS
活動詳細はこちら



は、学べることも多かったという。「これを機に、今年度は単独ライブの開催や賞レースへの参加など更に活動範囲を拡大していきたい」と意気込みを語ってくれた。最後に「お笑いは好きだけど舞台に立つのが怖いという方も、照明や音響、ポスター制作など裏方として活躍出来る場もあるので、ぜひ一度見学しに来てほしい」と熱く話してくれた。お笑いが好き・興味がある方は、一度立ち寄ってほしい。

B1級復帰を目指して!

2023年11月12日(日)に開催された令和5年度関東大学将棋連盟秋季団体戦B1級にて、上位校に善戦するも一歩及ばずB2級に降級となってしまった将棋部。B1級に復帰するために新体制が始動した。

安中太一部長(法律・3年)は「負け越してはしまったが、1位の明治大学から3勝を奪うことができた」と振る。同部は月に数回の部会を開き、部全体で対局を行うことを主な練習としているが、授業の空き時間にも部室に集まり個人で自主練習に励む部員も多いという。また将棋の周知活動の一環で、子どもたちを対象に将棋教室を開催するボランティアもおこなっており、活動も幅広くも同部の特徴の一つだ。



安中 太一 部長(法律・3年)
出身校: 産開高校(神奈川)

将棋部

将棋部
活動詳細はこちら



どきどきと突き詰めている魅力を知って欲しいそうだ。最後に「必ずB1級に復帰する。運に左右されることが少ない競技だからこそ、知識や練習量がそのまま結果に反映される。しっかりと経験を積んで戦ってほしい」と熱い想いを語ってくれた。今年も将棋部の活躍を応援したい。

私たちにできるボランティアを!

未就学児や知的障害を抱えた子どもたちとのレクリエーションや神大フェスタにて子ども向けの緑日開催など、横浜キャンパス周辺を中心にボランティア支援を行っている児童福祉ボランティアサークルSUNS。

大畑俊介学生代表(生物科・3年)は「子どもたちと遊んでいると私たちが自身も笑顔になれる」とボランティアの楽しさを話してくれた。同サークルは週1回程度、お昼に集まって昼食とコミュニケーションを兼ねた「昼会」を実施している。また、ボランティア情報LINEを通してサークル全員に共有し、参加できる方を募りながら日々のボランティア活動を行っているとのこと。



大畑 俊介 学生代表(生物科・3年)

児童福祉ボランティアサークルSUNS

児童福祉ボランティアサークルSUNS
活動詳細はこちら



いるように「私も2年生からサークルに加入しました。嬉しい上下関係もなく、すぐに打ち解けられた」と話す大畑学生代表は、メンバー同士も仲が良く、スポーツ大会や旅行などイベントも多く実施しているようだ。最後に「どんな人でもすぐに始められるのがボランティアの魅力だ。無理なボランティア参加はお願いしていないので、興味のある方は学年問わず見学しに来て欲しい」と話してくれた。児童福祉ボランティアサークルSUNSの今後の活動に期待したい。